

# 小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 45

2023年3月4日(火)発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所:〒187-8570 東京都小平市小川町1-830

## 柔らかい心

### 市川奈緒子(白梅学園大学子ども学科教授)

私事ですが、この3月で白梅を退職し、さまざまな地域の保育・教育・療育の現場におられるかたがたと一緒に仕事を中心とすることとなりました。

白梅にいました13年間を振り返りまして、学生育成、研究と並んで力を入れてきましたのは、現場の先生方との仕事でした。小平ではとくに特別支援教育の専門員として、小中学校のチーフ巡回相談員の活動を2011年度より続けさせていただいてきました。

現場の先生方と一緒に仕事をしてきまして、もともと学ばせていただきましたことは、1つの事態を理解するやり方やその内容が、見る立場、見る角度によってとても大きく異なるということです。たとえば、ある「不登校」と言われる事態があるとして、子どもがなかなか母親から離れようとしないう様子を見たりしますと、学校ではどうしても「親子分離がうまくできていないのでは？」というような懸念が湧いてきます。一方、母親から見ますと、誰も問題を解決してくれないように思えて、親子以外は信じられないように感じられるのかもしれない。子どもにはまた子どもにしか見えない景色があるはず。振り返りますと、私の仕事は、「こうしたらいいですよ」というよう

別の角度から眺めてみる視点を先生方と共有することであったように思います。

たとえば、「親御さんはこれがつらかったのかもしれないね。」とか、「この子はこんなにつらいのに学校に毎日来るのは、何ととっても先生方のことが好きだからではないでしょうか。」とか…そんな話をしているうちに、先生方から「実はこの子にはこんないいところもあるんですよ。」などの、先生方の心の中にあつた柔らかい部分が出てきた経験がたくさんあります。

小平市西ネットワークは、ひとが出会うというその根幹を地道に丁寧に地ならししてくださってきました。そしてそれは、1つの物事をさまざまなひとの立場から見る、考えるという風土を地域として作ってくださっていることと思いますし、白梅とその学生がそうした風土に支えられていることをありがたいと思います。今後も息の長いお取組みを願っています。

#### 小平西地区ネットワークって何？

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース(団体の担当者でも可)の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？

な知恵をお伝えするというよりは、今起こっていることを



# 11月あそぼうかいについて

坂詰沙弥



11月26日に11月あそぼうかいを開催いたしました。今回は「秋の収穫祭～秋のものを集めよう～」と題して、コーナーごとにテーマを決めて、秋を感じられるようなあそぼうかいを目標に準備を進めました。各コーナーごとの内容を当日の様子も踏まえて紹介していきます。

まず、受付コーナーではきのこの名札を用意しました。それぞれのコーナーへと向かう前に、秋を感じて貰うべく、紅葉やミノムシ、栗といった装飾の工夫をしました。また、収穫に欠かせない籠も用意しました。

制作コーナーでは新聞紙と画用紙を使いぶどう作りを行いました。画用紙や折り紙を6色を選ぶことができ、仕上げに葉っぱを付けることでより実物そっくりになります。参加者さんと素材の違いを楽しみ、ぶどうを完成させ果物の収穫を味わうことができました。

ホッとスペースでは参加者さんと壁に貼ることで作り上げられる紅葉の装飾や、秋にまつわる絵本を揃えました。参加者さんの中には「今日も絵本沢山読むんだ！」と言ってくださった方もいたそうです。秋を感じ、誰もが安心して過ごせる空間ができあがっていました。

あそびコーナーではスポーツの秋をテーマに、体を動かしながら秋の野菜を収穫します。動物の

口に野菜を入れるゲームや、おいも探しなど3種類のあそべる場所を作りました。

おわりのつどいでは音楽の秋をテーマに、音楽と劇を融合、見て・聞いて・やりとりして楽しい空間を作り上げました。音楽をかけ楽器のクイズを通し、参加者さんと一緒に楽器を知ることで、劇中の演奏をより楽しむことができました。

当日は、学生も参加者さんも笑顔で楽しむ姿が多く見られました。7月に続き、更に良いものを作ろうという意識により、学生からは「11月の方が大変を感じる」という声も聞こえました。しか



し、試行錯誤を乗り越え無事に11月あそぼうかいを終えられたことは達成感に繋がったと思います。



# 白梅幼稚園に遊びにいらしてください

## ～楽しいことがいっぱい～

### 白梅幼稚園主任 佐藤 恵



「なべなべそこぬけ、そこがぬけたらかえりましょ♪」とわらべうたを楽しんでいる親子の声が、コミュニティホールに心地よく響いています。1月に行った未就園児対象の『おはなし会』には、多くの方にご参加いただきました。



白梅幼稚園には、『園庭開放・ひよこの会』『おはなし会』と就園前のお子さんが保護者の方と一緒に活動する親子の会があります。2000年から『園庭開放・ひよこの会』、2009年に『おはなし会』が始まり、現在に至っています。園庭開放は、月1～2回水曜日に行われ、自由に来園し、園庭で園児と一緒に遊ぶことができます。ひよこの会は遊びのテーマがあり、身近な素材や道具を使い、作ったり、描いたりすることを親子で体験します。(コロナ禍の状況により、ひよこの会は活動を休止中)。おはなし会は手遊び・わらべうた・人形劇などを行います。

手遊びや人形劇が始まると子どもたちは、言葉の言い回しをおもしろがったり、お話の中にでてくる動物

の動きに関心を持って見えています。わらべうたでは、親子で触れ合い遊びをしたり、手をつないでねずみのダンスや門をくぐり抜ける遊びなど…繰り返し楽しめます。はじめは慣れない動きに、親子ともに戸惑う様子も見られますが、体を動かして遊ぶことで、気持ちがほぐれて笑顔がしだいこでてるようになってきます。

今年度は地域の方に楽しんでいただけるよう、活動の回数を増やして行いました。

コロナ禍で同年代のお子さんと遊ぶ機会がなくなり、幼稚園の中で遊べる環境は、園児だけでなく、就園前のお子さんや保護者の方にとって安心できる場所になっています。

足を運んで下さる中で、親子同士が顔見知りとなり話しをしたり、子育ての相談や幼稚園の生活について、保育者に気軽に声をかけてくれるようになってきました。もちろん、園児たちも自分より小さい子と関わることで、遊具を貸してあげたり、順番を譲ったり、時には一緒に遊んだりと微笑ましい姿も見られ、遊びにいらしている保護者の方から「ありがとう」と声をかけられている子もいます。

幼稚園の生活を身近に感じていただけたのか、2歳児クラス『ぴよぴよ』への問い合わせも増え、地域を越えて申し込みされる方もいらっしゃいます。

これからも、子どもたち同士のふれあう環境を大切にしながら、親同士が子育ての語り場となれる白梅幼稚園でありたいと思います。



# これからの都市公園について考える

## 白梅学園短期大学 浅野涼太



先日の白梅学園大学小平西地区・地域ネットワーク第46回懇談会に参加した際に、鷹の台公園についてのお話を聞き、僭越ながらコメントを述べさせていただきました。その際のコメントを思い出しながら、これからの都市公園について私の考えを2つ述べたいと思います。1つ目はトレードオフの視点を持つことの重要性についてです。トレードオフは簡単にいえば「こちらをたてればあちらがたたず」の制約です。当然のことかもしれませんが公園の敷地の広さや造るための費用には限りがあり(制約)、公園設置後には施設内容に応じた維持管理費が毎年かかることとなります。また、公園も歳をとるごとにメンテナンス費用が高くなっていくことも忘れてはいけません。

したがって、私たちは公園の持続性についても考慮し、必要最低限のものを配置していく必要があると考えています。ここで最低限としたのは費用面による理由だけではありません。例えば配置する施設が増えれば増

えるほど、子ども達が自由に遊べる空間は減少していきます。また、社会の変化によって後から設置したい施設や、やってみたいことが出てきたとしても、既にその余剰がなくなっているかもしれません。それは公園における柔軟性の損失ではないでしょうか。



ここで2つ目の考えとして、自由度の高い公園の必要性について考えを述べたいと思います。公園に必要な最低限の設備しかなかったとしても地域の人たちが自由な発想で案を出し、行政機関や公園管理者が協力的であれば、様々なことが実現できます。例えば私が管理していた公園ではコロナ禍でのドライブスルーの開催やアート作品作り、結婚式など地域の人たちの様々な発想を一緒になって実現してきました。これらは公園の設備が充実していたから実現できたものではありません。柔軟性と自由度を高め、時代背景に合わせて変化できる公園が地域には必要なのではないのでしょうか。

## クラブハウスはばたきの国際認証に参加して

### 瀧口優(諮問委員)

2月20日から23日まで小平市中島町にあるクラブハウスはばたき(以下「はばたき」)の国際認証会議が行わ

れ、アメリカとフィンランドから2人の審査員が訪問して運営状況についての調査が行われました。「はばたき」は

就労継続支援 B 型と地域活動支援センターの役割を担っており、小平市を中心とした精神障がいの人々を支援する施設です。1996年に設立され、今年で28年目を迎えています。

クラブハウスは精神障がい者を支援する施設として1970年代にアメリカでスタートし、世界中に広がっています。最大の特徴は支援者だけが運営するのではなく当事者も参画していくという理念を持って運営することです。

国際基準の「メンバー(当事者)とスタッフ(支援者)の関係」では「クラブハウスのすべてのミーティング(会合)

はメンバーとスタッフの双方に開かれている。プログラムの決定やメンバーに関する事柄を議論するメンバーのみの会議、あるいはスタッフのみの正式なミーティングは行わない」とあります。

日常の交流と同時にできる範囲での仕事に取り組んでいます。現在、西ネットが3か月に1回発行している「小平西のきずな」の印刷、帳合、そして封入と地域への配達(一部)を請け負ってもらっています。

更にできる仕事を探しています。何かありましたら声をかけてください。(クラブハウスはばたき 042-343-0676 小平市小川町 1-407-11)

# 小平市子どもの権利条約をすすめる会 発足

2月12日(日)午前10時から「小平市子どもの権利条約をすすめる会」(以下「すすめる会」)がスタートしました。子どもの権利条約は国際連合(国連)が、子どもたちの世界の子どもの安全と健康、発達を願って1989年に採択したものです。

「子どもの権利条約」は前文に続いて41ヶ条の条文があり、子どもを18才未満のすべての子どもを対象として、差別の禁止、子どもの最善の利益、生命への権利、生存発達の確保、名前や国籍を得る権利、意見表明権、虐待・放任からの保護、健康や医療への権利、社会保障への権利、生活水準への権利、教育への権利など子どもの基本的な権利の保護が書かれています。日本の子どもたちが受けている虐待やいじめなどは、この権利条約をすすめることで解消していかなければなりません。

現在世界196ヶ国がこの条約にあわせて国内での取り組みをすすめるための批准を行っています。日本は国連総会で採択された5年後の1994年に批准しましたが、世界で158番目です。

日本政府の動きは遅かったのですが、小平市は批准した翌年の1995年に小平市の子どもの権利条約を推進するための講演会を行い、この3月まで毎年様々な取り組みを行ってきています。しかしこの3月でこの取り組みも終わりとなります。そこで小平市の子どもの権利条約推進事業の企画委員として参加していた有志から、

この取り組みを引き継いで発展させることが提起されました。「すすめる会」はその提起に応えたものです。

2021年1月には東京都議会が子ども基本条例を採択し、東京都として子どもの権利条約を推進することを決めました。また2022年6月には日本政府として「こども基本法」を策定し、こども家庭庁を設置しました。これから各自治体が「子どもの権利条例」を作ることが求められます。小平市としても「小平市子どもの権利条例」をつくることが求められます。「すすめる会」はこの条例作りを目指して小平市や小平市議会に働きかけることになります。

子どもを取り巻く状況は決して予断を許しません。虐待、いじめ、不登校などは過去最多の状況がすすんでいます。私たち大人がこの条約を理解して施策をすすめることが今こそ必要です。西ネットに関わる皆様がこの「すすめる会」に参加し、一緒に子どもの未来をつくることに協力していただけたら幸いです。関心のある方は以下に連絡をいただけたら有り難いです。

現在すすめる会としては会員を募集していますが、基本的に大学生以下は無料です。子どもたちも会員になってもらい、すすめる会の参画者として意見を述べてもらいたいと思います。

187-0032 小平市小川町 1-755-2-106 瀧口方「小平市子どもの権利条約をすすめる会」

042-312-3682(T&F) takiguchi-masaru@iaa.itkeeper.ne.jp

# カフェなかじまから繋がった！

## カフェなかじま フレトレ事務局 菊地ゆみ

カフェなかじまは、地域包括支援センター「けやきの郷」と共に、令和元年度に公共施設を使用しての誰もが参加できる“地域の居場所”としてスタートしました。コロナ禍で公共施設の閉鎖や人数制限等もありましたが、乗り越えてきました。

今年度は、参加者の要望から司法書士の方々をお招きしての「終活講座」・マジックが得意な方と一緒に「マジック会」・「認知症サポーター養成講座」「盆踊り講座」など様々なイベントを行っています。

一昨年、イベントの一つとして小平の介護予防体操「フレトレ」(小平市の造語。フレイル(虚弱状態)をフレンドと一緒にプレープレーと行うトレーニングで改善していく)の講座を行った時に「毎週行ってください。」という高いハードルを担当の高齢者支援課より提示されましたが、かつて“さつき”が毎週2回開催されていたことを思い出し、しばらくの間、挑戦してみようか…という軽い気持ちで“フレトレなかじま”はスタートしました。今では、この介護予防体操教室が中島地域センターの他にも上宿公民館・上水新町地域センター・寺子屋公園など次々と増え、『毎週会える。どこにでも参加できる居場所。』として繋がり、広がり続けています。

フレトレなかじまの中で「腰を伸ばして安全に歩けるノルディックウォーキングをしてみたい。」という声を受けノルディックウォーキングの講師をお招きして講習会を開きました。今年の1月から小平の西側で初めてノルディックウォーキングのサークルが始まりました。

コロナが収束してきたら、この居場所の輪の中に、地域の子どもたちを迎え多世代の交流ができるように…と夢は広がります。

1000 円が 10,000 円に変化するマジック！  
カフェなかじま



認知症サポート講座 カフェなかじま



カフェなかじまから広がった[フレトレなかじま]



フレトレかみじゅく





## 西ネット・美大(武蔵野美大)通いの佳人として 10 余年 金田利子

美大通り界隈に事務所(生涯発達研究所)を構え、その近くに庵を置いて丸13年、四季折々ちよつとぶらりと歩いてみる。

不思議でならないことがある。それは、数件の喫茶や食事処と週に何回か開く古物屋さん以外には、美大をはさんで2 km くらいの間生活必需品を売る店という店が一軒もない事だ。以前はちよつとした食料品の小さな店があったがそれもたまたままれてしまった。大学構内には世界堂と食堂とATMはあるが、その他の店は無い。界隈には本屋もビデオ屋も映画館はもちろんコンビニもコインランドリーも、無い。不思議なのは、学生たちはそれでも困らないのだろうかという事である。他にもかなり以前の学生街と言われるようなところは少なくなってきたのかもしれない。

風物誌は、10月末から11月の初めにかけての美大祭へ大勢の人がやってくることだ。初めの頃、この行列は何だろうと不思議であった。分かっただけからは足を運ぶようになった。

確かににかなり自由な発想の企画があり、保育科の卒業生を連れて見に行ったこともある。

自分たちのつくったペンダントや指輪などの装飾品も売っているので、ここなら一味違うものが入手できると思って、ピアスが多い中でイヤリングもあったので購入したが、美の方に力が入り、機

能の方がお留守になったのか使わないうちに壊れ用をたさないこともあった。多分めったにないことに当たってしまったのであろう。

年明けのころには卒業展もあり、市民に公開されていることもわかり、ここにも何回か足を運んだ。ここで驚いたのは、教室がまるでひとりひとりの個展の会場のようになることだ。学校もかなり学生中心に運営していることが分かって、さすが活躍する先輩がいる大学だと感心した。名刺やノートがあるので感想を書き、それを契機に友達になることもできた。

さてその後は卒業式だ。去年は3月だというのに桜が咲いていた。コロナ禍でも工夫をするのか、門の前は色とりどりの着物やなかには創造的に奇抜な格好をしている卒業生がいる。それを見るのも楽しみである。

ふと、桜に送られて明るい彼・彼女たちを見ながら、この若者たちはこれから今の厳しい社会の荒波の中に向かっていく、決して流されずに泳ぎ手になれよと心でエールを送る。

「荒海にさくらの門を出で行けり”Life is ocean be a swimmer.”」と。

武蔵野美大の方々には、こうして見守る地域の人々が沢山さんいることに目を向けてねと願ってやまない。

# 旧年度を振り返り希望の新年度を創るために

◇助け合うつながりづくり サービスを 儲けの道につなげぬように

◆間に合わぬ者は立ち去れこの世(職場)から この仕組みこそ立ち去らしめん

◆そのような社会をめざし手をつなぐ 新人旧人多様さ活かして

◇目標を議論しあえる仲間いて 働く喜び生きる幸せ

金田利子

**皆さん、コミュニティサロン(下の①～④)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?**

**お待ちしております!**

**① ほっとスペースさつき**

毎週火曜と木曜 10:00~16:00 (移転先検討中) 問合わせ: 渡辺 穂積 TEL: 042-344-7412

**② ほっとスペースきよか**

毎週月曜 11:30~15:30 (移転先検討中)

**③ カフェなかじま**

毎月第1水曜日(祝日の場合は第2水曜日) 13:30~15:30 中島地域センター 参加費 100円

**④ 「分かった会」小中無科学習教室**

毎週木曜日 18:00~20:00 (小川公民館) 問合わせ: 奈良 勝行 (講師募集中!) TEL: 090-4435-4306

**イベントの予定**

\*西ネットとして展示及び交流の場を準備します。

**西ネットの今後の予定**

大学世話人会: 03月10日(火)18時~  
 大学世話人会: 04月11日(火)18時~  
 地域世話人会: 05月09日(火)18時~  
 大学世話人会: 05月23日(火)18時~  
 地域懇談会: 06月06日(火)18時~

西ネットの世話

ブロック	地域世話人	大学世話人
1	西 克彦・丸山安三	瀧口 優・杉本豊和 福丸由佳
2	足立隆子・芳井正彦・ 今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	大内智恵子・久保田進・ 穂積健児・杉浦博道・ 吉田徹	金田利子・草野篤子 西方規恵・牧野晶哲
4	桜田 誠・萩谷洋子 細江卓朗・渡辺穂積	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行・長谷川俊雄

**お願い**: この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当までお申し出下さい。

**投稿募集**: このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください(奈良勝行)。

メール: [everonward.nara@xd5.so-net.ne.jp](mailto:everonward.nara@xd5.so-net.ne.jp)

**編集後記**: 「小平西のきずな」も今回で45号を迎えます。コロナ禍がはじまって3年が経過し、日本社会も少しずつ動きを早めています。地域でも少しずつ集まる機会が増えています。多くの方が「会いたい」「話したい」と思っています。徐々に枠を広げて行けたらと思います(瀧口)。